

各地の梅林が見ごろの時期を迎えています。春はもうそこまで来ています。  
現在会員登録数 4,650 人さま。次号は 3 月 21 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

《6》富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

【1】お知らせ

● 「広松由希子と土居安子のゆったり まったり ぶっちゃけ絵本トーク」

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html#2025ehontalk](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#2025ehontalk)

◇録画配信 1月28日（水）～3月3日（火）申込締切

◎視聴料 1500 円 締切終了後、1週間程度ご視聴いただけます。

※お申し込みは Peatix から <https://2025ehontalk-2.peatix.com/>

● «ご寄付をお願いします» 当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

● YouTube 版「本の海大冒険」 <https://www.youtube.com/@iiclol196>

※公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/ml\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html)

● Instagram 随時更新 [https://www.instagram.com/iiclo\\_official/](https://www.instagram.com/iiclo_official/)

● X（旧 Twitter）毎日更新 [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Aya's Talk

\*\*\*\*\*

『テムズ川宝さがしクラブ① 川底のひみつの街』 カチャ・ベーレン/さく  
レイチェル・ディーン/絵 ないとうふみこ/訳 徳間書店 2026 年 1 月

対象年齢：小学校中学年以上

- \* 今回のゲストはイタリア語の翻訳家のよしとみあや（A）さんです。
- \* 作品の結末まで書いています。

あらすじ：ロンドンのエルム団地に住む少女、クレムは、同じ団地に住むアッシュとザラきょうだいと博物館主催の<テムズ川宝さがしクラブ>に入っ  
て、テムズ川が干潮の時に、岸辺で「宝」を見つける。川が大荒れの日、ク  
レムは川岸で不思議な丸いものを拾って博物館館長のオズワルドさんに見  
せるのを忘れる。すると、川はますます荒れ、天気も不順になり、パン屋さ  
んの床から水があふれ、エルム団地も崩壊の危機に陥る。クレムがアッシ  
ュたちとオズワルドさんに拾ったものを見せると、オズワルドさんは3人  
に川の底へ行くようにという。川底には、町があり、魚たちが暮らしてお  
り、バッキンギョム宮殿には女王がいた。

A：おもしろく楽しく読みました。

Y：中学年向けぐらいでおもしろいストーリーの作品ってなかなか見つけら  
れないので、うれしくなりました。

A：最近、カチャン・ベーレンの『ぼくたちは宇宙のなかで』（こだまともこ  
/訳 評論社 2024年11月 IICLOメールマガジン172号で紹介）を読  
んで他の作品も読みたいと思っていたので、タイムリーでした。『ぼくたち  
は宇宙のなかで』は、自閉スペクトラム症の弟との関係を兄の視点で描い  
たシリアスな作品だったので、まったく違うテイストの作品で驚きました。

Y：本当に。特におもしろかったのはどこですか。

A：テムズ川の川底に違う世界があるというのがとてもユニークだと思いま  
した。最初読んだとき、川の底の世界に海の生き物と川の生き物が交ざっ  
ているのが不思議でしたが、「訳者あとがき」を読むと、テムズ川のロンド  
ン市内を流れる部分が海水のまぎった「汽水域」であると書かれていて納  
得しました。

Y：私は団地に住んでいる、つまり特別ではない3人の子どもたちが川の底  
の町へ行くという不思議な体験をし、知恵を使って女王に王冠を戻すこと  
をやり遂げるところがいいなと思いました。

A：子どもたちは博物館主催の<テムズ川宝さがしクラブ>に属していますが、  
メンバーには二人の大人もいます。大人と子どもがいっしょに活動してい  
るところもおもしろかったです。

Y：クラブのメンバーのザファーさんはハルヴァという中東のお菓子をふる  
まい、博物館の館長のオズワルドさんもイグアナを飼っているなど、大人  
たちもユニークです。水浸しになっているパン屋さんをみんなできれいに  
したり、町の人たちがつながっていたりする感じもいいなと思いました。

A：川岸で「宝さがし」をするという場面も興味深かったです。19世紀のロ  
ンドンで、テムズ川の川底をあさって生計をたてている孤児の少年が登場  
する『フォグ 霧の色をしたオオカミ』（マルタ・パラッツェージ/作 杉  
本あり/訳 岩崎書店 2023年9月）を思い出しました。

Y：私は、ヘレン・クレスウエルの『The Beachcombers』（海岸で漂流物を探  
す人たちの意味 1972年発行で未訳）を思い出しました。

翻訳者であるよしとみさんは、翻訳についてどのように感じられましたか。

A：「川底ロンドン」の地名が、「大エイ図書館」や「セント・ポール大聖堂」  
が「セント・フィッシュ大聖堂」になっているなど、魚を使った言葉遊びに  
なっているところが楽しかったです。きっといっぱい考えられたことと思  
います。

Y：作品の中のロンドンには川の底の女王のせいで天候不順になります。現在  
の地球環境を思わせつつ、空想的な理由が語られているところでほっとし  
た気持ちになりました。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第125回「猫」 猫好き？猫嫌い？

宮沢賢治の作品には多くの動物が登場しますが、なかでも猫は個性豊かに描かれる動物の一つです。「どんぐりと山猫」「猫の事務所」などは題名に猫を含み、特に後者には竈（かま）猫をはじめ、黒猫、白猫、虎猫、ぜいたく猫、夏猫、冬猫など、実に多彩に猫が表現されます。「ポラーノの広場」「注文の多い料理店」には山猫が、「セロ弾きのゴーシュ」には三毛猫が出てきて、いずれも重要な役回りを演じています。〈猫のような耳〉をした雪婆んご（「水仙月の四日」）、〈山猫のにゃあとした顔〉（「どんぐりと山猫」）など、妖怪的なイメージに加えてユーモラスな表現が多いのも注目されます。

一方、短編「猫」は、次のように書き出されます。

（四月の夜、とし老った猫が）

友達のうちのあまり明るくない電燈の向うにその年老った猫がしずかに顔を出した。

夜、電燈の向こうの薄暗がりであらわれた老猫。なめらかにやって来た猫は、とまってすわり、前脚でからだをこすったかと思うと立ちあがってからだを延ばし、やがて〈かすかにかすかにミウと鳴きするりと暗の中へ流れて行〉きます。こうした猫に対して語り手は、次のように独白します。

（私は猫は大嫌いです。猫のからだの中を考えると吐き出しそうになります。）〈略〉

（毛皮というものは厭なもんだ。毛皮を考えると私は変に苦笑いがしたくなる。）〈略〉

（どう考えても私は猫は厭ですよ。）

他の作品とはずいぶん雰囲気異なり、本作では猫への嫌悪感が露骨に語られます。

〈猫の寄食性〉から、家業である「質・古着商」（農村に寄食）やそれを営む父、そしてそれらに寄食する自分（＝作者）という構図を指摘したのは平尾隆弘です（『宮沢賢治』1978年）。また、賢治作品の登場人物を猫としてマンガ化したますむらひろしは、家業に従事させられ、精神的に追い込まれていた作者にとって、年老いた猫はその頃の自身と父を重ね合わせたものと読んでいます（『イーハトーブ乱入記—僕の宮沢賢治体験』1998年）。

本作により、作者は猫が嫌いだった、としばしば言われますが、「夜」（闇）や「老」「毛皮」とともに綴られる猫への嫌悪は、単なる猫嫌いではすまずことのできない問題を孕んでいるようにも思われます。作者にとっての猫は、愛すべき動物であるとともに、家や父、職業といった現実の煩悶を象徴する、両義性のある存在であったのかもしれない。（ペ吉）

（本文の引用は、天沢退二郎編『宮沢賢治万華鏡』（新潮文庫）によりました。）

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 80

\*\*\*\*\*

フィリップが やってきたとき

一輪のぼらのもとへ  
水をこえ  
宝は運ばれた だれも知らないところへ  
わたしのむすめしか 知らないところへ

(『ハヤ号セイ川をいく』 フィリパ・ピアス/著 芦沢良子/訳 エドワード・アーディゾーニ/画 講談社青い鳥文庫 講談社 1984年5月 p.96)

鉄道が敷設される前、イギリスにとって川はとても重要な交通経路でした。対談ではテムズ川が登場しましたが、『トムは真夜中の庭で』(高杉一郎/訳 岩波書店 1967年12月)で知られるフィリパ・ピアスの最初の作品である本作も川が重要な役割を果たしています。

夏休み、大雨の降った日、デビッドは庭から行ける川にカヌーが流れ着いているのを見つめます。持ち主を探してカヌーを漕いでいくと、持ち主のアダム少年に出会います。アダムは、両親を亡くし、おばさんとおじいさんと大きな屋敷に住んでいますが、経済的に困窮しています。そこで、16世紀に祖先によって隠された宝を見つけようと必死になっています。その手がかりが、引用の詩です。

デビッドとアダムは友だちになり、まずは、カヌーにニス塗りを塗って水漏れしないようにし、次に、謎の言葉の意味を解こうと必死になります。その意味でこの作品は宝さがしのおもしろさがあります。フィリップとは誰か、「ぼら」とは？水をこえるとは？この短いメッセージは幾重にも読め、読者はデビッドたちとともに頭をひねります。

と同時に、デビッドとアダムの友情物語であり、宝さがしの過程を通して、土地の人々やアダムの祖先の過去を知る物語であり、川の歴史を知る物語でもあります。加えて、アダムの家の隣に引っ越してきたスミスさんは怪しい動きをしていて、宝さがしのライバルがいることで、宝さがしに緊迫感が走ります。

何度も「これまでか」と思う状況になりつつ、最後には鮮やかに事件が解決する結末は、ピアスの筆力を感じさせます。カヌーで川を往来するデビッドとアダムの情景が目浮かぶようで、肌で水を感じながら再読しました。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

あべのハルカス美術館で3月1日まで開催されている「密やかな美 小村雪岱のすべて」に行ってきました。あべのハルカス美術館のホームページによると、「小村雪岱(1887~1940)は、大正から昭和初期にかけて活躍した美術家です。日本画や書籍の装幀、挿絵や映画の美術考証、舞台装置に至るまでを幅広く手がけ、情趣溢れる端麗な画風から「昭和の春信」と称されました。」とあります。一見、子どもの本とはかかわりがないようですが、大阪府立中央図書館国際児童文学館で検索すると、富山房「画とお話の本」の『源氏と平家』(楠山正雄/著 1925年11月)やアルスの「日本児童文庫」の『太平記物語』(藤村作/著 1929年8月)など、児童書の挿絵も手掛けていることがわかります。

展示はプロローグとエピローグには含まれた8章で構成されており、時代をとおって、雪岱の日本画、木版画、植物の写生、絵巻の模写、装幀した本や雑誌、装幀の下絵、新聞小説などの挿絵の原画、舞台装置の原画など約600点が前

期・後期にわけて展示されています。

特に心に残ったのは、本の装幀でした。はじめての装幀本である泉鏡花『日本橋』（1914年）は、舟を浮かべた両川岸に白い土蔵が整然と並び、そこに赤、青、白、黄の小さい蝶が舞っています。そして、その川を渡る橋のようにして背があり、日本画と西洋的なイラストレーションが調和して見事です。見返しも凝っており、表と裏に四季の情景が描かれています。雪岱は1918年から資生堂の意匠部所属となります。そこで、1922年4月に創刊された子ども向け雑誌「オヒサマ」も、大人向け販促用冊子「化粧」や、大人向け雑誌「花椿」とともに展示されていました。

そのほか、邦枝完二「おせん」の新聞連載時の下絵、書籍化された絵も展示されており、静かなたたずまいの中に強い意思を感じさせる女性像が印象的でした。細身で可憐、繊細な表情の美人画で人気を博した江戸時代の浮世絵師鈴木春信から名前をとって「昭和の春信」と称されたというのも納得です。

どの絵もデザインに優れ、構図がユニークで、余白に意味が持たされていることによって、美術館全体に静けさが漂っているように感じました。（K）

あべのハルカス美術館  
<https://www.aham.jp/>

\*\*\*\*\*  
《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち 第27回  
\*\*\*\*\*  
第6章 鳥越信先生  
その1 三つの児童文学史展（中）

1979（昭和54）年11月、鳥越信先生（1929～2013年）が監修した児童文学史展のお手伝いで、鳥越先生といっしょに沖縄に行きました。私は、1年浪人して入学した大学院の1年次で、24歳でした。

この連載では、「思い出話」を語るだけではなく、私の出会った児童文学作家や評論家の仕事に対する考察や、さらには、そこから、現代児童文学史のとらえ直しも試みます。ご愛読ください。

<本編はこちらから>  
[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/watashinodeatta.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html)

\*\*\*\*\*  
《6》 富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025  
\*\*\*\*\*  
STORY COMPE. 第2回（キーワード「パン」「ワニ」、2月2日締切）の応募作品30編の中から、富安陽子理事長が選んだ5作品を発表します。

- A 「この電車はアフリカ行き」
- B 「月と少女とこげたパン」
- C 「はかせのふしぎなパン」
- D 「ミドリとわしのオバケやしき」
- E 「ワニくんのパンづくりきょうしつ」

こちら↓に作品を公開しています。作者名は伏せています。  
[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/storycompe.html#186\\_5sakuhin](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/storycompe.html#186_5sakuhin)

※ご自分の作品が選ばれた場合、結果発表までは公表をお控えください。

読んで、いちばんおもしろいと思った作品にぜひ投票してください！  
投票はどなたでもしていただけます。（1人1作品のみ）

◇投票期間：2月20日（金）～3月31日（火）

投票はこちらから→<https://forms.gle/XS9nkYTKjPRuVZEg9>

みなさんの投票を集計し、上位2作品を4月21日発行のメールマガジン  
NO.188で発表します。同じ条件で書いた、富安陽子理事長の作品も公開しま  
す。お楽しみに！！

<詳細はこちらをご覧ください>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/storycompe.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/storycompe.html)

### 【3】全国のイベント紹介

#### ●「三浦太郎展 絵本とタブロー」

場所：刈谷市美術館（愛知県刈谷市）

会期：開催中～3月22日（日） 9：00～17：00 ※月曜休館

入場料：有料 中学生以下無料

主催：刈谷市美術館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報につい  
ては、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

### 【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『テムズ川宝さがしく  
クラブ① 川底のひみつの街』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント  
応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メ  
ールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえご  
応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uL2TpNhMEYWJpnQ9A>

締切は3月10日（火）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

先日、第20回国際グリム賞の贈呈式があり、受賞されたイマー・オサリバ  
ン博士の「『不思議の国のアリス』を絵で表す一記号間翻訳としてのイラス  
トレーション」というとても興味深い記念講演を聴くことができました。  
二年に一度の賞の40年の歴史を改めて感じました。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお  
願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html)

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

-----  
発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp  
-----  
-----